

第2 社会的自立に困難を有する若者に対する相談支援における課題

1 支援が必要であるが、支援の必要性を認識していない若者やその家族

ア 抱えている困難そのものの認識が無い場合

- ・ 最初の段階から自分が置かれている状況を理解し、認識できている人は少ない。 <若者、家族>
- ・ ひきこもりの場合、家族が受容的な姿勢だと、本人も危機感を持つことができない。 <若者>
- ・ 支援の必要性を認識できずにいると、困難が長期化する傾向

イ 困難があることを認識しているものの、相談を躊躇、支援を求めない場合

- ・ 個人や家族が自己解決すべきと思っているケースもある。 <若者、家族>
- ・ 支援を求めてよい深刻な状況との認識が無く、支援を受けようとの思いに至らない、あるいは支援を受けることにためらいを感じてしまう。 <若者、家族>
- ・ 親は、疲弊している上に、自分の育て方が間違っていたという罪悪感にも苛まれ、相談を躊躇してしまうことがある。 <家族>
- ・ ひきこもりの場合、荒れる時期を経て安定した状態になると、刺激を与えないよう見守るようになるため、結果として放置し長期化する。 <若者、家族>

ウ 若者や家族に対して支援に関する情報が不十分な場合

- ・ 一般的な広報手段では情報が届かない。インターネット広報でも工夫しないと、若者のネット上の生活圏に、うまく伝わらない。 <若者>
- ・ 都においては若ナビαの広報を実施しているが、まだ認知度は高いとは言えない。 <若者、家族>
- ・ 家族についても、自分の家族が困難を抱えていると認識していなければ、情報を求めようとしない。 <家族>
- ・ 非行の場合、社会の理解（立ち直ろうとする者を受け入れ、手を差し伸べる）が十分でなく、支援に関する情報そのものが少ない。 <若者、家族>

2 支援の必要性は認識しているが、どの機関に相談したら良いか分からない若者やその家族

ア 複合的な課題を抱え、相談先が不明な場合

- ・ 課題が複合的であったり、不明確な課題を抱える若者や家族は、必要な支援を客観的に捉えることが難しい。 <若者、家族>
- ・ このような状況では、相談窓口があったとしても、何をどこに相談したらいいのか分からない。 <若者、家族>

イ 相談しやすい窓口や支援機関が見つからない場合

- ・ どの支援機関がどのような相談に対応できるのか、自分にはどの支援機関が合

っているのか、判断するために十分な情報が届いていない。〈若者、家族、支援機関〉

- ・ 身近な地域において、どのような内容の相談にも対応し、一次的な受け皿となる相談窓口や、適切な支援機関にリファーできる相談機関が十分整備されているとは言えない。〈若者、家族、支援機関〉

ウ 所属や関係が途切れることにより、相談先が無くなる場合

- ・ 本人が学生である場合は、学校を通じて支援に繋がっているが、学校を離れると支援が途切れてしまうこともある。〈若者、家族〉
- ・ 非行の場合、警察、保護観察所、保護司等多くの機関や専門家が関わるケースもあるが、段階ごとに途切れ、保護観察期間が終了すると相談先がない。〈若者、家族〉

エ 相談機関を利用しづらいと感じる場合

- ・ 身近な地域では相談したくないケースもある。〈若者、家族〉
- ・ 行政の相談機関は利用しづらいケースもある。〈若者、家族〉
- ・ 民間の支援機関は利用料が高いこともある。〈若者、家族〉

3 相談したが、適切な支援機関へ繋がらない若者やその家族

ア 抱えている困難が十分に伝わらず、相談の入口段階で躓く場合

- ・ 困難を抱える若者は、自分の困難を伝えるのに時間がかかる。〈若者〉
- ・ 若者は、自分の意に沿わないことを言われると、抗議しないまま、相談することをやめてしまうことがある。〈若者〉
- ・ 抱えている困難が十分に伝わらずに支援がうまくいかない場合、支援者への不信感から相談を止めたり、他の窓口で相談するなど、不安定な状態となることがある。〈若者、家族〉
- ・ 困難を抱える若者の家族は、育て方が間違っていたのではという罪悪感から、自分の意に沿わないことを言われると、相談をやめてしまうことがある。〈家族〉

イ 支援者が適切に見立てたりリファーすることが難しい場合

- ・ 若者が困難を長期的に抱え込まないようにするには、最初の相談窓口では、専門性が高い対応が求められる。〈支援機関〉
- ・ 最初に相談を受けた段階で、見立てが十分でない場合、支援のミスマッチが生じ、たらい回しとなることがある。〈支援機関〉
- ・ 原因が分からずとりあえず医療支援につないだケースなど、本来医療が必要でない者が医療機関にかかっている場合もある。〈支援機関〉

ウ 連携不足や支援の切れ目が生じている場合

- ・ 自治体においては、各種の課題に対応する支援窓口があるが、支援の切れ目が生じている。＜支援機関＞
- ・ 民間の支援団体は、相談者により適した支援機関につなごうと思っても、情報不足により、適切な支援につなげない場合がある。＜支援機関＞
- ・ 医療機関との連携は重要であるが、個人情報の制約もあり、連携が難しい。＜支援機関＞
- ・ 非行の場合、矯正施設を出た後の住居や雇用の確保が重要だが、矯正・更生保護、児童福祉、警察等の連携体制が十分でない場合があるので、再犯を繰り返してしまうこともある。＜支援機関＞

＜3つのフェーズ以外に必要な支援＞

- ・ 若者が抱える様々な困難は、特別なことではなく、社会全体の問題として受け止め、若者の自立を後押ししていくことが重要
- ・ 全ての若者が元気にいきいきと暮らせる社会の実現のためには、子供の頃からの環境づくりも大切